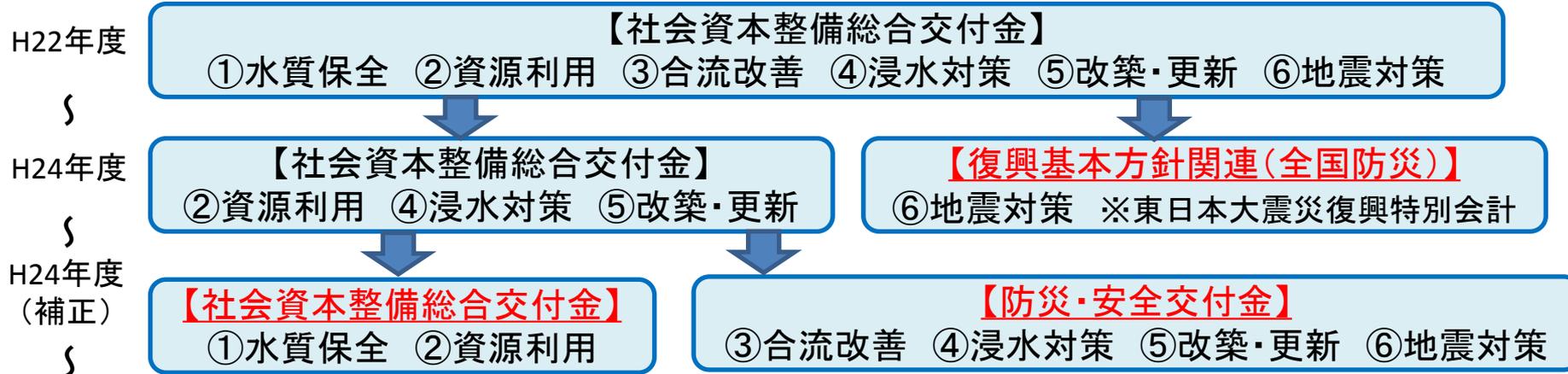


社会資本総合整備計画の 事後評価について

平成29年3月22日
千葉市
建設局下水道建設部
下水道計画課

社会資本整備総合交付金とは

平成22年度に、国土交通省所管の地方公共団体向け個別補助金を一つの交付金に一括し、自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金として創設された。



社会資本総合整備計画とは

社会資本総合整備計画書の提出

概ね3～5年で実現しようとする目標、事業内容等を記載

内定通知

国土交通省から**整備計画ごと**に当該年度に交付可能な国費を**内定通知**

社会資本総合整備計画の事後評価

事業の完了に伴い**評価を実施**(公表および国土交通大臣へ報告)

社会資本総合整備計画の期間と目標

期間 : 平成22年度～平成26年度

目標 : 下水道の整備や適切な改築更新を行うことで、住民に良好かつ継続的な下水道サービスを提供するとともに、浸水被害の軽減を図るなど、安全・安心、快適な暮らしを実現する。

社会資本総合整備計画の成果目標(定量的指標)

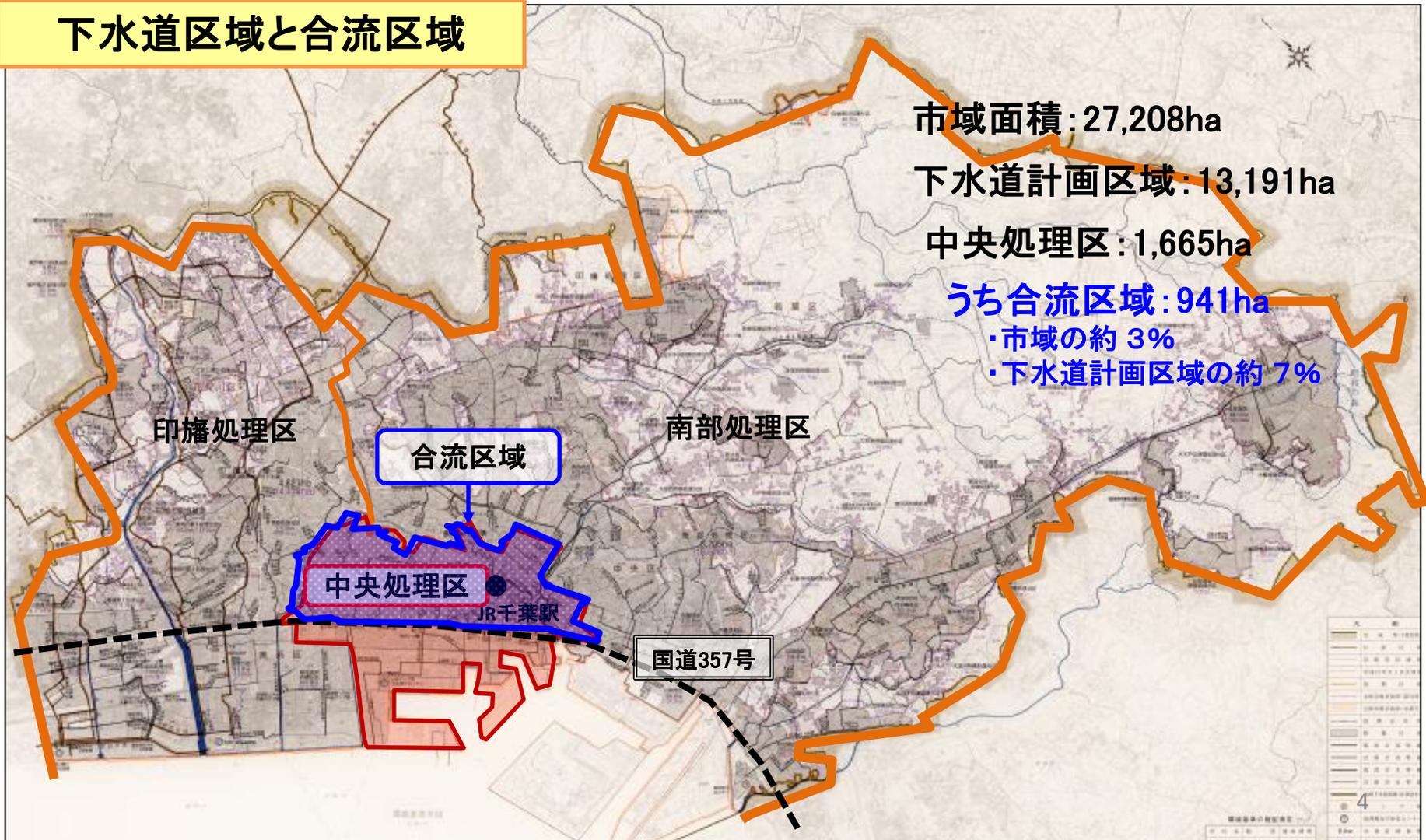
- ①合流式下水道改善率4.1%(H22当初)から100.0%(H25末)を達成する。
- ②良好な水環境創出のための高度処理人口普及率を43.0%(H22当初)から52.9%(H26末)に増加させる。
- ③平成26年度までに築造後50年を迎える管渠のうち、平成22年度当初時点で未改築の管渠について、改築更新実施率を0%(H22当初)から67.4%(H26末)に増加させる。

①合流式下水道改善(合流改善)率

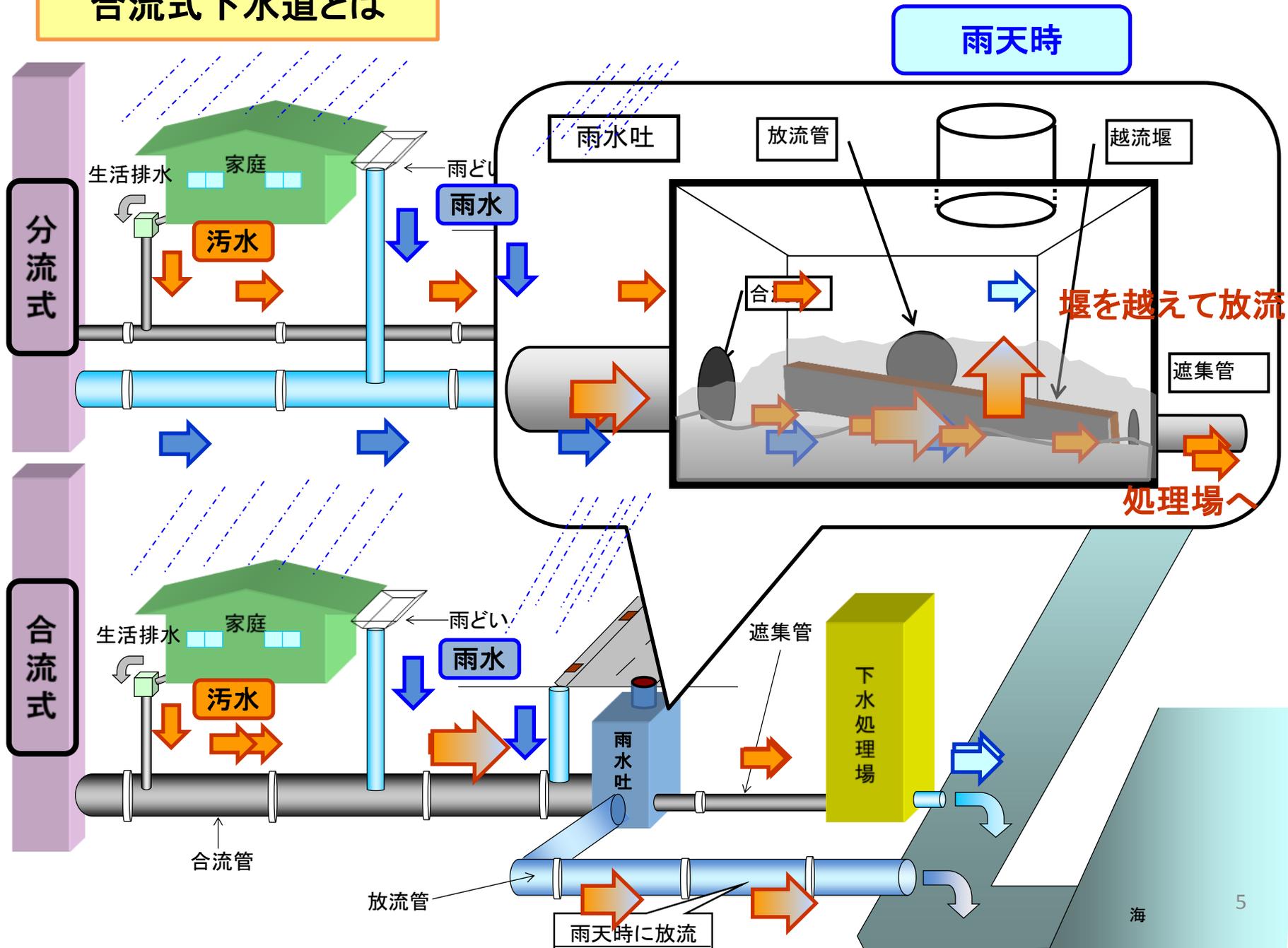
合流改善とは

河川や海などの公共用水域へ流出する未処理下水量を削減すること。

下水道区域と合流区域



合流式下水道とは



合流改善の必要性と目標

雨天時に未処理下水が川や海に放流される

衛生上の問題



晴天時の雨水吐の状況(千葉市中央区富士見1丁目 : 葎川)



平成15年に下水道法施行令が改正され、平成25年度までに合流式下水道の改善対策を完了することが義務付けられた。

※合流区域面積が大きい場合(1,500ha以上など)は平成35年度まで

【改善目標】

- ①汚濁負荷量の削減
(分流式下水道と同程度)
- ②公衆衛生上の安全確保
(未処理放流水の放流回数を半減)
- ③きょう雑物の削減
(吐口できょう雑物の流出を極力防止)

汚れた初期雨水が川に出ないように、一時的に貯留し、晴天時に処理場できれいにして放流する。

ゴミが出ないようにする。

合流改善対策①

初期雨水を貯める施設

【中期】貯集沈殿池の設置

北部第二貯留管

- ・管径 ϕ 1,800mm
- ・延長L=472m
- ・貯留量V=1,300m³

稲毛区役所

JR東千葉駅

合流区域

JR西千葉駅

JR千葉駅

中央雨水ポンプ場 雨水滞水池

- ・貯留量V=17,000m³

JR本千葉駅

国道357号

分流区域



稲毛黒砂貯留管

- ・管径 ϕ 3,250mm
- ・延長L=1,600m
- ・貯留量V=13,300m³



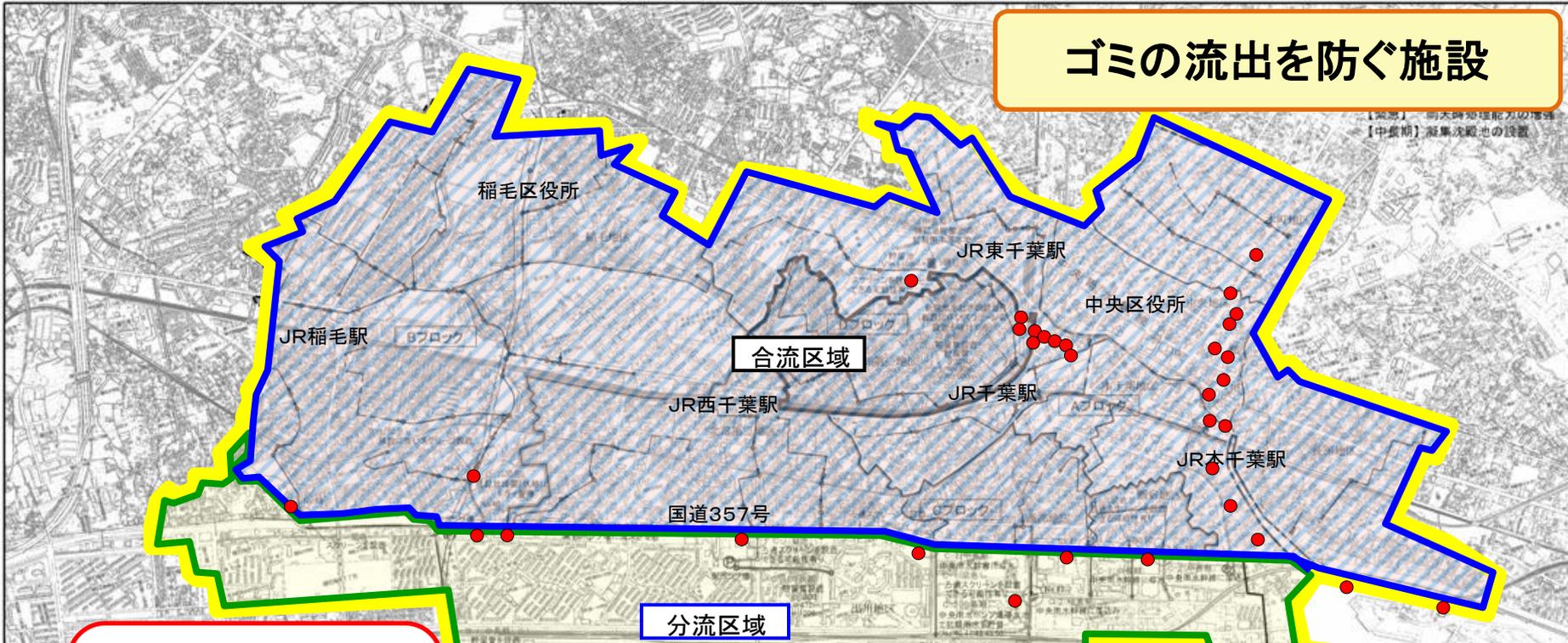
中央浄化センター 雨水滞水池

- ・貯留量V=10,500m³

合流改善対策②

ゴミの流出を防ぐ施設

【実施】 雨天時処理能力の確保
【中長期】 凝集沈殿池の設置

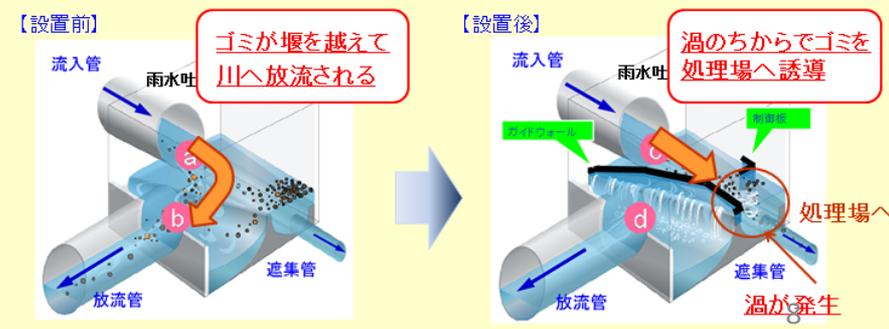


**雨水吐33箇所に
渦流式水面制御
装置を設置**

渦流式水面制御装置とは、人工的に渦(うず)を発生させ、ゴミなどが堰を越えて川へ放流される前に、遮集管(処理場へ流れる管)に誘導するもの。

凡例	
	合流管
	放流管
	遮集管

中央浄化センター



達成状況

	H21末	H22末	H23末	H24末	H25末
対策施設	北部第2貯留管	稲毛黒砂貯留管 中央雨水幹線 綿打池貯留管 栄町地区	長洲地区	本町地区	中央浄化センター 雨水滞水池
改善済み面積	39 ha	723 ha	740 ha	807 ha	941 ha
改善率	4.1%	76.8%	78.6%	85.8%	100%

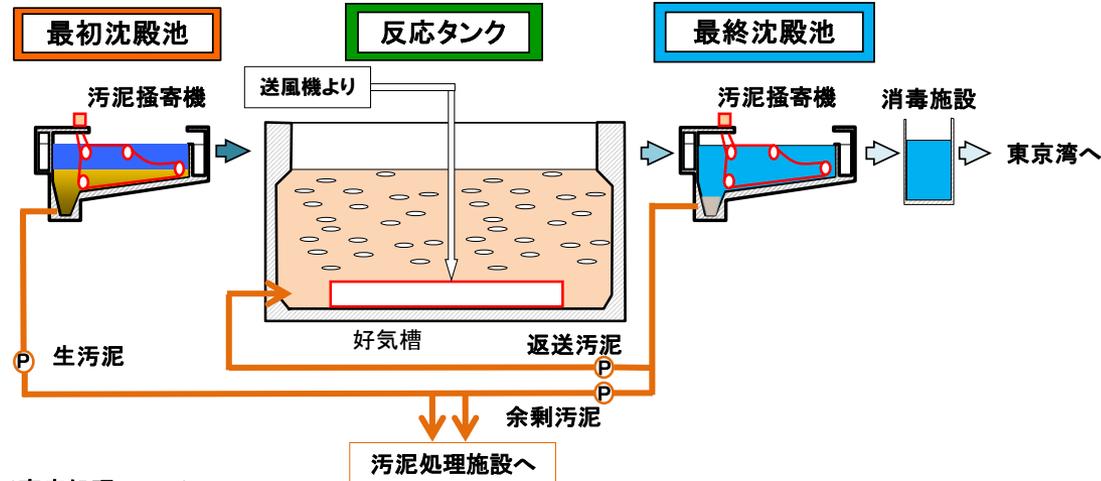
- 下水道施行令により義務付けられた合流式下水道の改善対策が完了し、公共用水域に放流する汚濁負荷量の削減が図られた。

②高度処理人口普及率

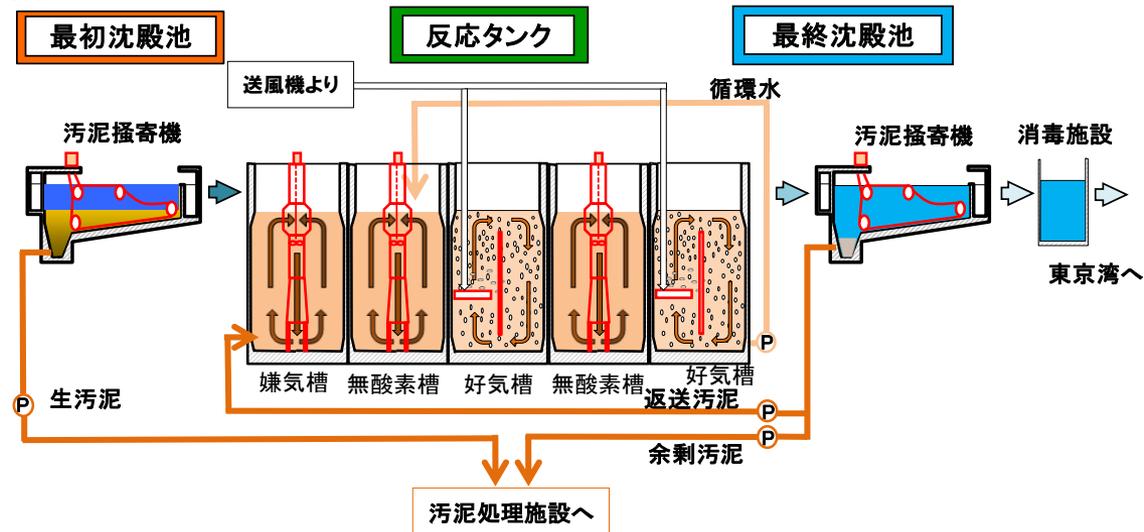
高度処理とは

下水処理水に含まれる**窒素・リン**を除去することにより、閉鎖性水域である東京湾の水質改善に貢献すること。

<活性汚泥法フロー>



<高度処理フロー>



実施状況

東京湾で発生する赤潮・青潮の発生要因となる処理水に含まれる**窒素・リン**を除去します

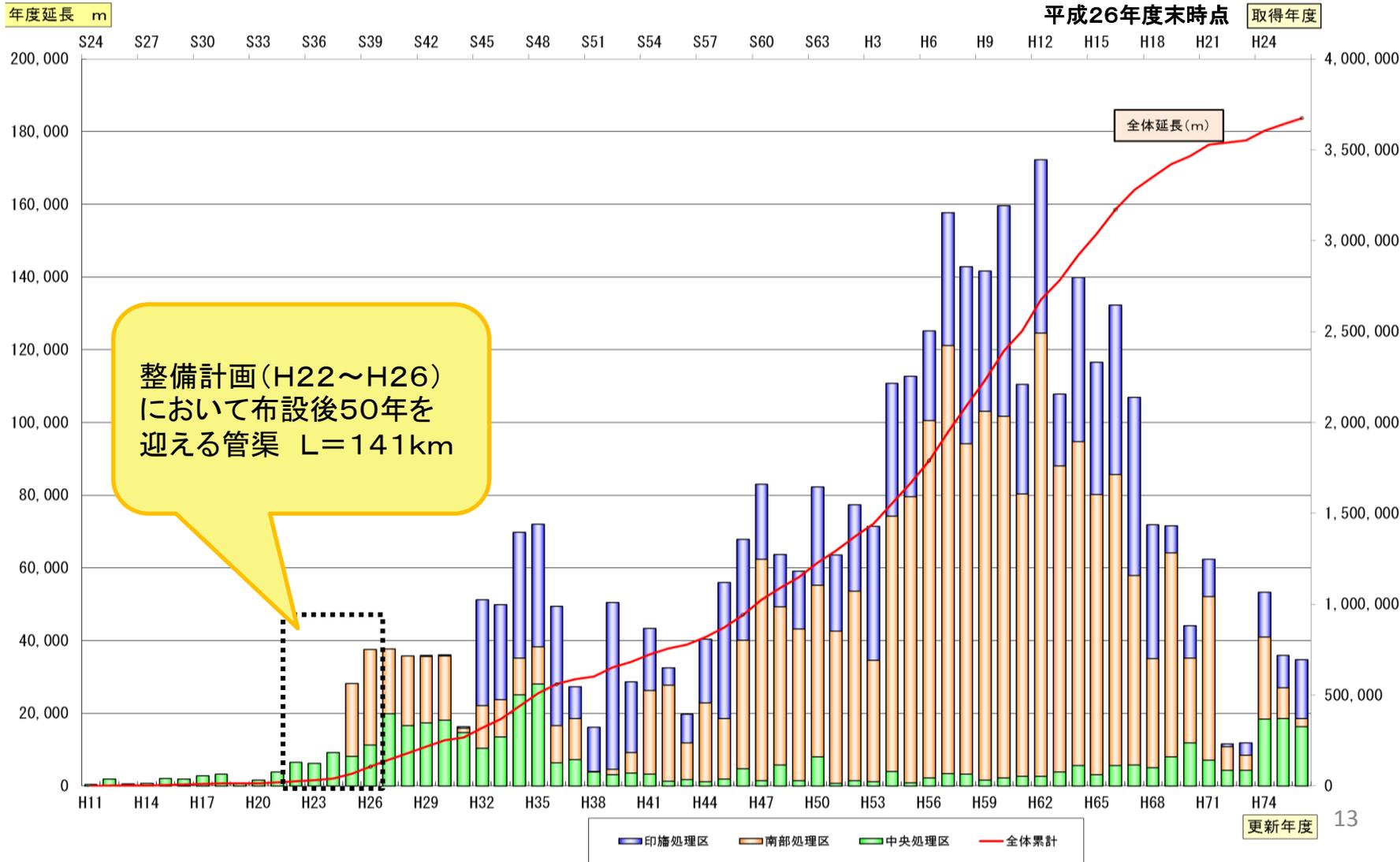
千葉市



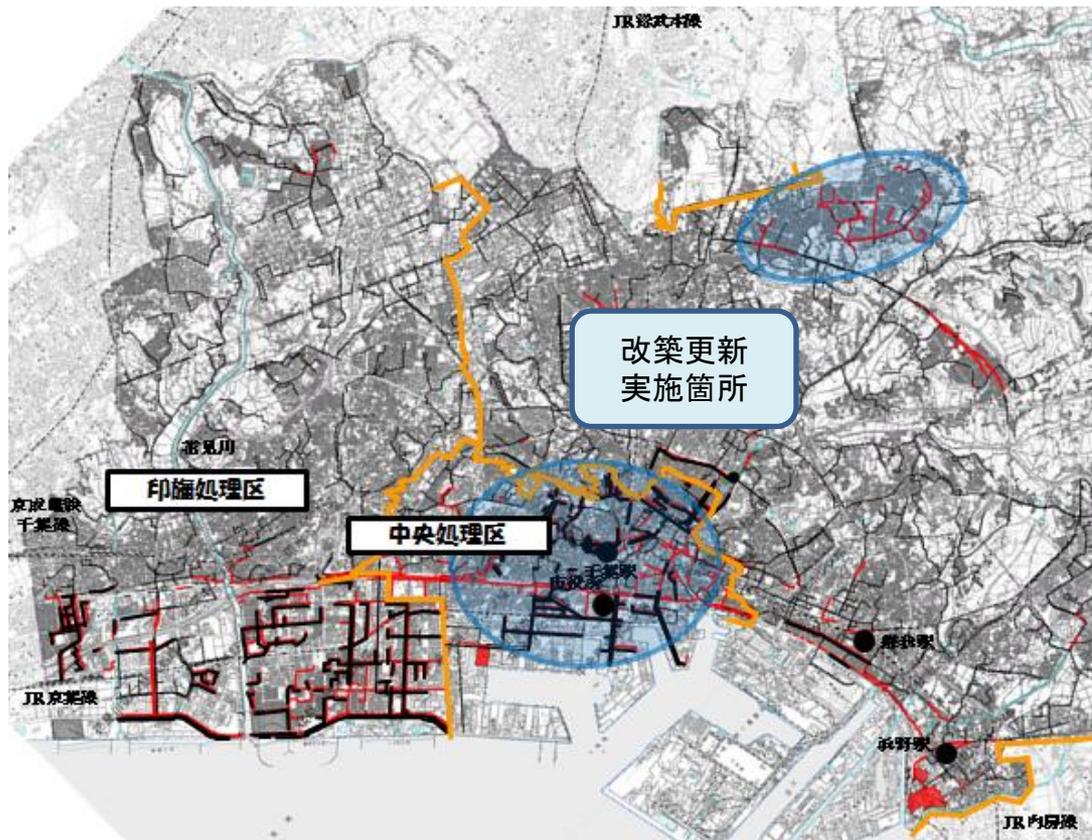
③改築更新実施率

改築・更新とは

道路陥没等の事故リスクを軽減するため、老朽管を対象としたカメラ調査の結果をもとに健全度を適正に評価・把握し、効率的に改良工事を行うこと。



実施状況



カメラ調査状況

取付管TVカメラ



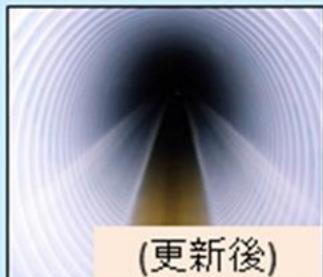
TVカメラ自走式



施工状況



(更新前)

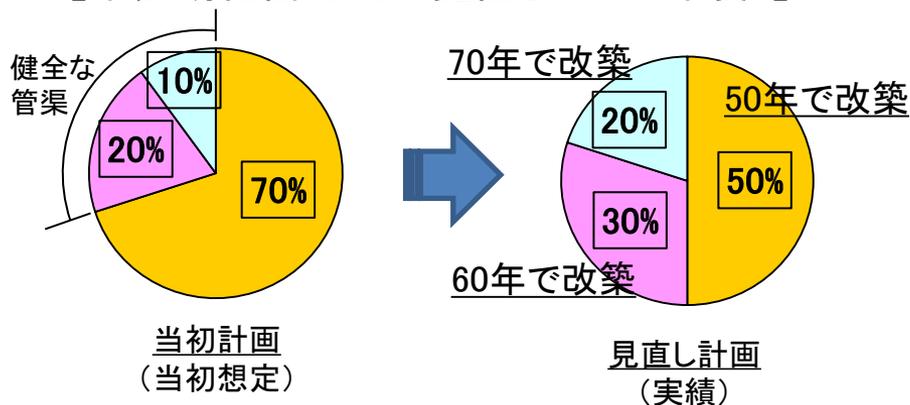


(更新後)

達成状況

	目標(当初想定)	実績
調査延長	141km	135.4km
整備延長	95km	64.6km
実施率	67.4%	47.7%
当初想定以上に健全であった管渠の割合	—	18.2%
実施+健全な管渠	—	65.9%

【中長期経営計画の見直し(H25年度)】



整備延長は目標値に達していないが、調査の結果、健全な管渠が当初想定
の3割程度に対し、5割程度と想定以
上に多かったことによるものであり、
健全であった管渠18.2%を加算すると、
最終実績値は65.9%となる。

➤老朽化管渠の改築更新を行い、道路陥没や下水道の
流下阻害による事故リスクを軽減することができた。

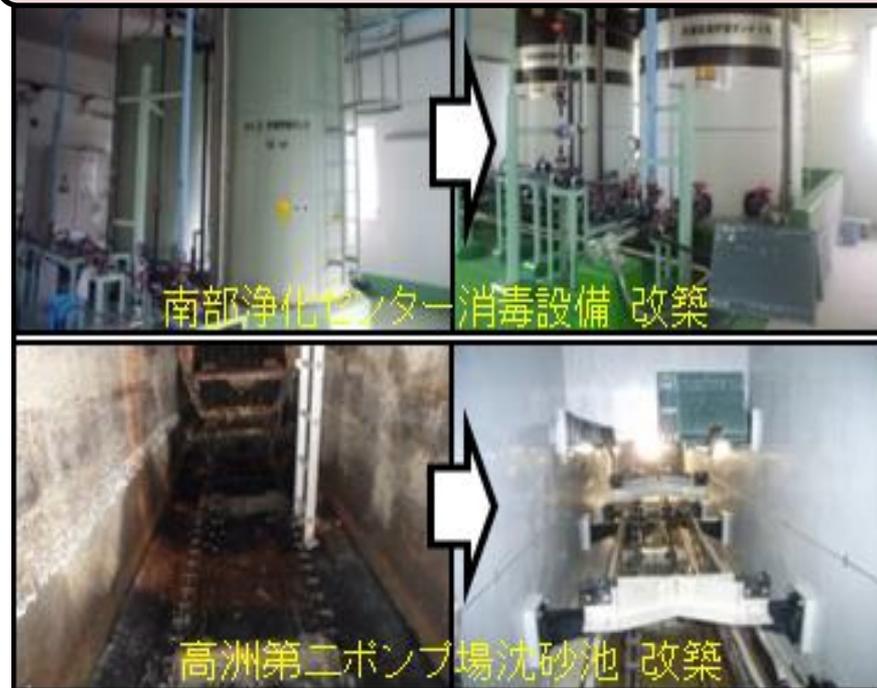
成果目標(定量的指標)以外の事業効果(1/2)

本計画において、住民の安全・安心、快適な暮らしを実現するため、以下の施策を実施した。

地球温暖化防止に貢献



機能停止等による事故リスクを軽減



地震発生時でも処理機能確保



成果目標(定量的指標)以外の事業効果(2/2)

本計画において、住民の安全・安心、快適な暮らしを実現するため、以下の施策を実施した。

局地的な大雨等に伴う浸水被害の軽減



災害時でも衛生的なトイレ環境を整備



イメージキャラクター
「カワウソ一家」
左上：アクア（パパ）
右上：クリーン（ママ）
中央下：かわちゃん（女の子）